
仮面ライダーディケイド S T A R S

石森翔太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイドSTARS

【Nコード】

N7070X

【作者名】

石森翔太郎

【あらすじ】

MOVIE大戦後、ようやく掴んだ平和、士は一人旅に出た遂に手にした休息、平和の毎日を送って居たがしかしそれは長く続かなかったある日士の前に灰色のカーテンが現れ飲み込まれた、カーテンの先には宇宙空間だった底にはユウスケ達も居て、士とりマジネーション達の物語が始まった

プロローグ（前書き）

始めまして、石森翔太郎です

今回初めて投稿致しました

駄文、誤字、脱字、指摘などありましたら

直していきますのでよろしくお願いいたします

最後に感想も待っています、それでは始めます

プロローグ

MOVIE大戦から1年仮面ライダーディケイドの事、門屋士は一人旅に出る事にし、写真館を後にした

2年前までは、士は、^{ディケイド}いろんな世界で破壊者、悪魔と呼ばれていた。しかしそれは過去の話に過ぎない士は今、長い休息をしている。士は大きい公園の広場に寝ていた、空を見やげながらこんな事をつぶやいていた。

「ユウスケ、ワタル、シンジ、カズマ、タクミ、シヨウイチ、野上、モモタロス、ソウジ、アスム……
アイツ等、今頃元気にしているだろうな、夏海も爺さんも」

士はユウスケ達の事を考えていた自分が旅に出会った皆を、士は起き上がり出発しようとしたその時……!

突如大きい揺れがあった地震だ。士はその場にしゃがみ込んだそのままの体制で揺れが終わるのを待った
2、3分後ようやく治まった

「何だ今の地震は何か悪い予感が……」

その時……! 士の悪い予感が的中した、今度は風が吹いてきたそれかなり強い士はすぐに大きい木のしがみ付いた、

「今度は嵐かよ……! 一体どうなっているんだよ……!」

士が大声で風に文句を言っていた、その時、風の吹いている先にあの灰色のカーテンが現れた

「何であれが……う、うわー」

士はあのカーテンに飲み込まれてしまった、カーテン先にあったのは何とかつて紅渡と初めて会ったあの

宇宙空間みたいな所だっだ

「どうゆう事だ俺は何でまた此処に連れて来られたんだ。」

しかし、この場所に居たのたのは士だけではなかった彼が前がむいた何と……

「ユウスケ……ユウスケ!!」

「士……士!」

そう、底にはユウスケが居た、

「ユウスケお前も此処に居たんだ」

「いや、俺だけじゃなく、皆も居るよ」

ユウスケは言った皆とゆうのは

「まさか俺達だけじゃなく、ワタルやカズマ達も……」

士が前方見た先にワタル、カズマ、シンジ、タクミ、ショウイチ、良太郎、モモタロス、ソウジ、アスム

達が居た

「士……」

「カズマ」

「「「士さん……」」」

「シンジ、タクミ、ワタル、アスム」

「「門矢」」

「ショウイチ、ソウジ」

「門矢さん」

「よ!!」

「野上、モモタロス、お前等も此処に連れて来られたのか」

「ああ同やら俺達は何者かによって此処につれて来られたらしい」

「御待ちしてありました、皆さん」

突如士達に謎の女の声がした同時に大きい光が出てきた

「何だこの光は」

「おい！何だお前は」

「残念ながら、今は言えません。それより貴方達に頼みが合るので
す」

「頼み？どんな頼みだ」

謎の声は士達に頼みがあると言ってきた、しかし士はなぜ？皆なのか俺やユウスケならともかくとゆう顔だった

「私はある御方から話を聞いて、貴方の活躍ぶりを知りました、デ
イケイド」

「それはどうも、でさつき行った頼みとうゆうのは」

「はい実は私の世界が今最大の危機が迫っています、このままでは
私の世界が……：……お願いです！！

私の世界を助けてください、お願いします。」

「わかった、お前の頼み引き受けた」

「士……」

「ただし！一つだけ質問させてくれなせワタル達も連れて来させた
んだ。俺とユウスケで十分の筈だ」

「そういわれみれば、どうしてワタル達も此処に」

「ユウスケ二人の質問に彼女はこう答えた

「今回の戦いは貴方達2人だけでどうにかなる問題じゃないのです。
貴方達10人の力が必要なのです」

「俺達の力が……」

「必要……」

「私のは以上です」

彼女が話しを終えた途端また光が現れ士達に照らした光が消えたと
同時に士達もその場から消えた。

プロローグ（後書き）

次は登場人物の紹介をいたします。

登場人物の紹介？（前書き）

警告、この作品に登場人物の仮面ライダー達はアニメキャラをイメージした作品となります、実際のアニメキャラ演じた声優さんと士達を演じた俳優さん全然合わないと思います
それでも大丈夫な方は引き続き作品観賞をしてってください。

登場人物の紹介？

門矢士／仮面ライダーディケイド

21歳 誕生日3月20日 身長182cm 血液型B型

本作の主人公、劇場版後彼は悪魔、破壊者としてではなく旅人としてまた仮面ライダーとして旅を続けた途中灰色のカーテンに飲み込まれその先は宇宙空間だったそのにはユウスケ達が居てそして彼らの前に

謎の声が聞こえ彼らに話かけた【自分の世界を救ってくれ】と言われ士は再びディケイドに……………

(CV／井上正大,) (イメージキャラ, ネオアンジェリクの髪を茶髪にしたレイン)

剣立カズマ／仮面ライダーブレイド

21歳 誕生日6月4日 身長173? 血液型A型

本作の準主人公、劇場版後彼はTVシリーズに引き続きBOARDの社長しながら日々生活を送って矢先

灰色のカーテンに飲み込まれ士と同じ宇宙空間つれて来られカズマも士と同じくまた再びブレイドに変身し戦う事を決意する。本作ではユウスケに代わって士のサポートをする、士達がブレイドの世界を旅たった後料理, 掃除, 手芸などのやるようになった。

(CV／鈴木拡樹,) (イメージキャラ, ナイトウィザードのカズマヘアの柊蓮司)

芦川シヨウイチ／仮面ライダーアギト

33歳 誕生日1月30日 身長180cm 血液型AB型

士達がアギトの世界を旅立った後彼は自分の世界を守る為戦う道を選んだ。劇場版では士達と共にスーパーショッカーを壊滅した。その後TVシリーズと変わらずアギトとしてアンノウン達と戦っていたそんな中灰色のカーテンに飲み込まれ宇宙空間で士と再会謎の人物の頼みにショウイチも士と同じ道を選んだ。

(CV／山中聡，) (イメージキャラ，彩雲国物語の髪を黒髪にした浪燕青)

野上良太郎／仮面ライダー電王

15歳 誕生日12月26日 身長166? 血液型O型

本作の準主人公メインライダーで唯一のリマジネーションのライダーではないEPIISODEYELLOW以降もデンライナーで旅をしていた時大きい地震に遭遇しその直後灰色のカーテンが現れ彼とモモタロスはその中に飲み込まれ士達と同じ空間につれて来られるそして良太郎、モモタロスは士と協力する事に、

(CV／溝口琢矢，) (イメージキャラ，機動戦士ガンダム00ファースシーズンの沙慈クロスロード)

モモタロス／仮面ライダー電王ソードフォーム
身長186cm

本作では良太郎登場から彼の側にいる唯一のイマジン、良太郎と連れて来られた宇宙空間で士たちと同じ

光を浴びてのちに人間態として士達に姿を現す彼も戦う事に。

本作では良太郎と同じライダーパスを持っているので良太郎居なくても変身可能

(CV／関俊彦，) (人間態イメージキャラ，最遊記の玄奘三蔵)

尾上タクミ／仮面ライダーファイズ

17歳 誕生日6月16日 身長177cm 血液型A型

士達と別れた後彼は自分の正体オルフェノクを知られてしまったため高校を退学し由里とも別れ行方

を暗ませたMOVIE大戦でもファイズの姿で登場のためしばらく消息不明だったが今回謎の人物の依頼で再び士達と前に現れそして謎の人物の世界に転送し士達と再会し戦う。

（CV／制野峻右，）（イメージキャラ，スーパーロボット大戦のリュウトヒカワ）

登場人物の紹介？（後書き）

身長、誕生日、血液型はアニメキャラと士達演じた俳優さんを合わせたものです

次はユウスケ達の紹介をします。

登場人物の紹介？（前書き）

この登場人物の紹介も前と同じく、アニメキャラをイメージさせた物となります。

それでは紹介します

登場人物の紹介？

辰巳シンジ／仮面ライダー龍騎

20歳 誕生日1月24日 身長175cm 血液型A型

MOVIE大戦後彼は士達来る前と変わらず（ATASHIジャーナル）でカメラマンをやっている

その後も龍騎に変身し戦っている日々のある日、灰色のカーテンに飲み込まれ士達とで会う謎の人物の依頼で戦う道を選択し中盤でユウスケ、ソウジ、アスム、ワタル達と共に士達と合流する事になる。

（CV／水谷百輔）（イメージキャラ、髪を肩まで伸ばし髪を結んでいるセキレイの主人公の佐橋皆人）

ソウジ／仮面ライダーカブト

26歳 誕生日3月14日 身長180cm 血液型B型

TVシリーズで士と別れた後も自分の世界をワーム達と戦う毎日の生活を送っていた。

MOVIE大戦後も変わらず、生活をしていた、そんなある日灰色のカーテンに飲み込まれそこで士達と

再開する謎の人物の光を浴びてそして世界に転送し一人のセーラー戦士と出会うそれが縁でユウスケ達と再会し中盤に士達と合流する。

（CV／川岡大次郎）（イメージキャラ、薄桜鬼の土方歳三）

アスム／仮面ライダー響鬼

14歳 誕生日9月13日 身長162cm 血液型O型

士達と別れた後イブキ、トドロキ達とに戦っていた、そしてライダー大戦の世界でブレイド、キバの世界

との融合して自分が消滅仕様と最中でも士と最後まで共に戦いスーパーアポロガイストを倒したしかしその直後、ワタルと一緒に消滅した。しかし後にMOVIE大戦で響鬼の世界が再生しワタルと一緒に合流しスーパーショッカーを倒した。その後イブキ達と修行の毎日を送っていたそんなある日修行していた時に灰色のカーテンに飲み込まれ宇宙空間につれて来られるそこで士達と再会し謎の人物から光を浴びてそして、その人物の世界に転送された底で一人のセーラー戦士^{ネプチューン}と出会いその事でユウスケ達と再会そして中盤に士達と合流する。

(CV／小清水一輝) (イメージキャラ、少年陰陽師の安倍昌浩)

ワタル／仮面ライダーキバ

12歳 身長161?

士達と別れた後人間とファンガイアとの共存を目指して日夜努力していた、ライダー大戦の世界では自分の世界が消滅の危機でもアスムと共に士達と一緒にスーパーアポロガイストを倒したしかしその直後にアスムと一緒に消滅したがMOVIE大戦でキバの世界が再生し最終決戦の時にアスムと合流そしてスーパーショッカーを倒し、自分の世界に戻り王の仕事をしていたがその時に灰色のカーテンに飲み込まれ宇宙空間につれて来られ、士達と同じ光を浴びてそして謎の人物の世界に転送しそこで一人のセーラー戦士^{サターン}と出会いそれでユウスケ達と再会物語の中盤に士達と合流する。

(CV／深澤嵐) (イメージキャラ、聖痕のクェイサーの髪を黒くした主人公、サーシャ)

小野寺ユウスケ／仮面ライダークウガ

21歳 身長171? 誕生日6月26日 血液型A型

本作の準主人公この物語では士とは別行動

MOVIE大戦後一度クウガの世界に帰って行った、しかし彼の心は空白だった仕事も就けずに

街の中をぶらついていたら、その時に灰色のカーテンに飲み込まれて宇宙空間につれて来られ底で士とカズマ達と再会それと同時に謎の人物の光を浴びてそしてその世界に転送しその世界で一人のセーラ^{ネオクイーンセレニティ}
^{ブルート}ー戦士と出合いこれをきっかけに自分自身と変わりシンジ達と再会する

物語の中盤に士達と合流する。

(CV／村井良太) (イメージキャラ、蒼穹のファフナーの主人公、真壁一騎)

登場人物の紹介？（後書き）

次は遂に物語の話に入ります

A c t, Z E R O 三十世紀クリスタルトーキョー（前書き）

いよいよ物語の始まります、どうかまだ、書く事に慣れないです。
しかし諦めません

どうか長く、暖かい目で見守ってください、では始まります。

Act, ZERO 三十世紀クリスタルトーキョー

「うーん、うーん、ん？ 此処は何処だ」

士は目を覚ました周りを見渡すとさっきまでいた、宇宙空間ではなく木がいっぱいあるどうやら此処は、

森の中だった先ほどまで一緒だったユウスケ達の姿なく此処（この場所）は自分一人だろうとたしかめ立ち上がり歩き出した、それから歩きだして30〜40分森を抜け士はあるものを見たそれは何と大きな神殿と空には輝く美しい月の満月士は余りにも驚いていた。

「何だ！ この神殿は俺は一体何処につれて来られたんだ、もしかして俺は……………」

（ディケイド、ディケイド）

「その声はさっきの何所だ！ 何所にいる！」

（私は今、貴方の後ろに居ます）

士は後ろを振り向いた、後ろはさっきまであるいて森の中から足音が聞こえて来たそれも段々近づいてきている士の心臓が《ドキドキ》してきたそして森の中から姿を現した、その正体はセーラー服の姿で腕近くまではめている長い手袋のようなものと白いブーツに背中に白い翼付けた少女の姿だった。

「もしかして、さっきの空間の声はお前なのか、」

「ええそうです先ほど居たあの空間の声は私です。」

彼女は直に答えた士は彼女に此処は何所なのか質問をすことにした

すると彼女は素直に答えた

「私はネオクイーンセレニティ、セレニティと呼んでくれれば結構です」

「セレニティ此処は何所なんだあの神殿はユウスケ達はどうした。」

少し興奮気味の士に質問にセレニティは冷静に答えた。

「ここは30世紀そしてあれはクリスタルトーキョー」

「クリスタルトーキョー???.....つまり1000年後の東京って事か」

「ええその様な考えで良いでしょう、それとクウガ達は無事です。彼等は先に私の世界に到着しているでしょう。」

「私の世界? ちょっと待てそれはどう結う事だユウスケ達はここ《30世紀》に入るんじゃないのか?」

士はまたもセレニティに質問をした、その質問に彼女は静かに首を振ったそして彼女は答えた

「いいえここ《30世紀》ではありません1000年前の20世紀なんです。」

「20世紀だと」

「はいそうです。」

「そうか……じゃ何故俺を」

「それはある御方から、貴方が色んな世界を救った話を聞きました」
セレニティ言ったある御方とは士はもしかしてある人物の名前を口にした

「もしかして紅渡か」

「ええ彼（紅渡）からです、そろそろ本題に移りましょうか」

「ああ、悪いな」

「ディケイド、貴方が倒した大ショッカーとスーパーショッカーご存知ですよ」

「ご存知も何もそいつ等は俺達皆で倒した、……………まさか！！！」

士の顔は陰しくその表情でセレニティを見つめていた彼女はふっとタメ息を吹き覚悟して士に話す事にした

「ええ貴方の考えのとうり奴等はまだ生きていました。そしてスーパーネオショッカーとして私の世界に」

「そうかわかった、改めてお前の頼みを引き受けた」

「有難う御座います。」

「だかどうしてカズマやシンジ達連れてきたんだ、そんな事なら俺とユウスケだけで十分なはずだ」

士の言葉にセレニティはビックリした顔して、大きい声で返して来た

「何を言っているんですか！！！今回は貴方とクウガだけで何とかなる話ではありません！！！スーパーネオショッカーは前よりもパワーアップをしている貴方が考えてるほど甘くはないのです」

「悪かったなゴメン」

「いえ、私こそ大声出してごめんなさい」

「セレニティそろそろ俺をお前の世界1000年前の20世紀に連れられてくれ、そろそろ皆（ユウスケ達）と合流しけないと不味いからさ」

「そうですね、少し話すぎましたね、それでは今から道を出します」

セレニティは瞳を閉じ両手を握り強い光出したすると何と灰色のカーテンが現れた士はカーテンの方に歩き出した

「じゃなセレニティ」

「いってらしゃいディケイド」

こうして土は灰色のカーテンの中に消えてったそして土の新たな戦い始まった。

A c t, Z E R O 三十世紀クリスタルトーキョー（後書き）

次はとうとう士が二十世紀には次回にお会いしましょう。

A c t, 1 破壊者と美少女戦士の出会い（前書き）

ようやく本編に入りますが、話がかなり書いています、それではま
いります

Act, 1 破壊者と美少女戦士の出会い

「うーん、ん!! 此処は何所だ」

士は目を覚ました辺りは暗闇で夜になっていた、そして立ち上り辺りを見渡した周りには子供の遊具やテニス、バスケットコート等の施設があるどうやら此処は広い公園のようだ。そして入り口には自分が乗っているバイク、マシンディケイダーあった、と此処で士は上着のポケットから携帯電話を取り出したどうやら時間の事を気になっていた。

「今はまだ夜中の3時過ぎか、起きた事だし街をぶらつくか………あれ? ない、ない!!」

士はある持ち物が無くしてしまったそれは彼にとっては肌身放さず持っていたあれを

「ない、カメラが無い!! 何所に無くしたんだ。」

士は公園中懸命に探したしかし見つからなかった彼は探すのをあきらめマシンディケイダーの方に歩いてマシンディケイダー乗りキーでエンジンをかけるヘルメット被り公園を後にした。こうして士は夜の街を

ぶっ放していたそれから走り出されてから2時間後辺り明るくなり朝日が出てきたとここで士はマシンディケイダーを駐車場に止めここから歩くことにした。

此処は住宅街そして此処は月野家、この家にはこの物語のもう一人の主人公がいる、とここでこの家から

階段の降りるがして来たそれもデカイ音でそして降りてきたのは髪型は左右にシニヨンでツインテールのセーラー服の少女

そう彼女がもう一人の主人公月野うさぎどうやら今、そうとう急いでいるみたいだ。

「遅刻だ！遅刻！ママお弁当」

「うさぎ、朝ごはんは」

「そんなの食べている暇ないよ、とにかくお弁当」

「はいはい」

うさぎの母、育子からお弁当を受け取りいそいそと玄関で靴を履きドアを開けようやく登校すようだ

「いってきます！」

一方士は街中を歩いていた、最初は5、6件位しか無かった、住宅も歩いてく内に住宅街に変わっていった。それから段々と高層ビル、マンションなど見る見ると増えて来たそれと同時に人も増えいき気がつけば人ゴミの状態になって行ったどうやら今は通勤ラッシュの時間帯なのだろう歩いていた士は立ち止まった彼が見た先は外灯テレビだったどうやらニュースを見ていた

（次のニュースです。最近人が突然消えてしまう事件が続失しています、話によりますと洋服店で試着室に入ったまま消えてしまったリ、レストランでトイレに入ったまま消えたりするなど怪奇現象事

件が多発しています、その他にも人が灰になって崩れ落ちる事や無残な殺害など自分がもう一人の自分合うドッペルゲンガー現象、また山奥などに河童や妖怪見たとゆう目撃者多発しています。世界いや人類はどうなってしまおうのでしょうか。」

ニュースキャスターが読み終わると、立ち止まって見てた士が歩き始めた先ほど見たニュースで余にも衝撃的だったネオ大ショッカーが侵略を始まっていたそして士の顔の表情は怒りの顔だったそして心の中で呟いていた。

（ネオ大ショッカーか、ま今回も鳴滝の仕業だろう、たくアイツも好い加減に諦めろまあさっきのニュースの奴はユウスケ達の世界の世界に居たモンスター達がま、とにかく早くユウスケ達と探さないとな）

士は人がゴミの中に消えて行った。

場所が変わって此処は警察の本部の警視庁、今、会議室で大勢の刑事達が集っていた。その訳はさっき士が見てたニュースの問題の事である。此処に居る皆は未確認生物の合同捜査本部の集りである、この会議室だけで50人以上の刑事達が居る、皆険しい表情また真剣な表情者が多いそして会議が始まった。

「皆も知ってもとうり今年に入って直ぐに不可解な事件、一つ目は余にも異常な連続殺人、この写真を見てのとうり、体の一部が斬り裂いた物やバラバラになった物がある、二つ目は最近街中で自分の同じ顔した人間に出くわし、同じ顔したものの同士が出くわしたら同じ顔した相手が怪人に変身し殺害をする事件が多発されている」

今読み上げた人物は警視庁警備部でこの未確認生物合同捜査本部の立ち上げた本部長の石川サダオすると

石川は口を開き何か詳しい情報や目撃や手がかりがあるか質問をする事に

「何か詳しい情報や手がかりは無いか」

「はい、あります」

石川の質問に答え椅子から立ち上がった刑事は士達と関係を持つ人物、長野警察から派遣した刑事彼の名は葛条カオル、^{かつじょう}葛条は石川の質問に答えた

「目撃者によりまずと先ほど本部長が話した同じ顔した人間に化ける怪人には緑のサナギの怪人を群れ

で現れる事やそのサナギの怪人が脱皮のような物を行うなどさらにその怪人は高速移動能力あってそれを見た情報が多数されています。」

此处で葛条はその証拠の映像をこの会議室のスクリーンにだしそれを皆に見せたその映像を見た皆は信じられないような顔をしたこんな事が現実に起きている何て誰もが信じたくなかったそしてこの映像が終ると本部長の石川が口を開いた。

「これで会議は終了する、何か質問とか無いか」

しかし質問する者が居ない

「じゃ解散」

こうして会議が終わり刑事50人一斉に立ち上がり会議室を去って

行く、

時刻は昼の12時過ぎになったそして此処は十番高等学校、この学校にはある少女が通っているのだ、

場所が変わって教室クラスは1－1此処には何とあのうさぎが居たしかし今寝いたそれも口開け鼾けいていたその彼女に3人の少女が現れた。

「うさぎちゃん、起きて、」

「起きてくれよ、早く」

「うさぎちゃん、うさぎちゃんでは！！！」

3人の少女の呼びかけてようやくうさぎは目を覚ました、しかしまだ完全に起きたわけでは無かった
うさぎは大きいあくびをし目をこすった、口を開いた

「あれ？亜美ちゃん、まこちゃん、美奈子ちゃん」

「うさぎちゃんもう昼休みよ、早くしないと場所が無くなちゃうよ」

「あーそうだったね」

こうしてうさぎは完全に目を覚めカバンから、朝、母子から受け取ったお弁当を取り出し学校の外に出た。学校の庭に丁度空いている所があった皆はそこに決め座る事にした

「そうだ、ねえ皆最近、テレビや新聞で見た」

一番に口を開いた、青髪でショートヘアの彼女は水野亜美、彼女はうさぎと中学生の時から友達で、

I Q 3 0 0の頭脳を持つ、中学の時は全国の模擬試験をトップクラスを持った記録がある少女

「ああ、それなら、あたしを見たよテレビで最近レストランや洋服屋の試着室やトイレなどで一度入ったら荷物をそのまま消えちゃたり、後自分と同じ顔した奴に殺されたるてゆうあれか」

亜美の話に次に口を開き話した、茶髪の天然パーマのポニーテールの彼女は木野まこと彼女もうさぎとは中学生の時から友達で、この中で一番の背が高く、男言葉を使い、少し喧嘩早い所もあるが優しい女の子、この中で唯一両親は事故で亡くし、両親の保険で一人で暮らしている

「あとそういえばさ、山奥で河童や巨大蟹とか妖怪が現れるとかあと灰色の化け物に襲われたらその人は灰となっちゃうとかゆうあれね」

次に口を開き話した、金髪のロングヘアで赤い大きなリボンしている彼女は愛野美奈子彼女はうさぎ達とは別の中学に通っていたがよく皆と会っていた、うさぎとは考えや意見が良く合って、運動神経の抜群の女の子

「うん、それならあたしもテレビで見たよ、何かとんでもない事が起きたみたいだね」

「ええ、私怖いわ要約平和になったのに」

「ギャラクシアの戦いからまだ1ヶ月ぐらいなのに、」

「もしかしてまた新たな敵が現れたとか」

皆はその場に黙り込んだ要約手にした平和がまた戦いの日々に戻りしてしまいうじゃないかと考えこんで

しまった、しかしその数分後この不味い空気をかき消すようにうさが口を開いた、

「まあそんな事考えないで、お弁当食べようよ」

「そうだな、」

「そうよ、そうよ」

「そうだね、じゃ食べようか」

うさぎ達はお弁当を食べるのであった

その頃士はとゆうとあれから東京中を歩いていた、情報収集得る為であるそして歩いている内に様々な情報得ることが出来た、1、この世界は自分が旅してきた世界違って21世紀の2011年ではなくその14年前の1997年だったつまり過去の世界に来たと結う事になる、2、今まで旅してきた世界では当たり前に使えた、電車やバスを簡単に乗りよりする事がICカードはこの世界では過去の事のなのでもちろん駅の改札口やバスにICカード機能どころかカード自体が無いため使うことが出来ない、3、これらの共通点の他に紙幣がまだ千円札が夏目漱石、五千円札が新渡戸稲造が使われたいたため、今までの紙幣が使えないただし運良く士の財布の中身はこの世界に来た同時に旧札に変わっていたため助かった、こうして士は手がかりを得る事が出来た。

「成る程な此処は俺が旅してきた世界とは丸で違々と結う事か」

それから士は街中をぶらついていたら、その時張り紙のポスターを目にした

「ルネサンスホールの宝石のジュエリーの発表会？会場はこの近くか、入場料は無料か入ってみるか」

ポスター見た後再び歩き始めたそして1、2分ようやくルネサンスホールに着いた、そのまま入っていた

士が入ってから数分後今度はうさぎ現れた実はこの発表会にはうさぎの中学生の友人の親が政策に関わっていて、学校の放課後に行こうと考え来たのだった。

「確かに此処だけど、なるちゃんは何所だろう」

「うさぎ！こっちこっち」

彼女の名は大阪なる、中学の友人で亜美たちと出会う前からの友人である、しかし高校は別々に進学する事になった。

「なるちゃん久しぶり元気だった」

「うんもちろんよ、ねえねえこっちだよ付いてきて」

こうしてうさぎとなるは見学する事にした、それから場所が変わって士はゆうと建物中をみていた、とその時、歩いている士に2人の高校生にぶつかった、その高校生はさっき此処に着たばかりのうさぎ達であった

「痛てー」

「「ごめんなさい」」

「……………」

士にぶつかったうさぎ、なるは直ぐに謝ったが士の顔は怒っている表情で（次から気をつけろ）と感じでと降りすぎた、うさぎは少し

イラッとした、

「何よアイツ、なるちゃん感じ悪かったね」

「うん、でもさっきの人、すぐイケメンだったじゃない」

「う、うんでもあたしはまもちゃん一筋だから」

「もう、うさぎたっら」

うさぎは機嫌を直し再びなるに案内する事にした、しかしその数分後にとんでもない事態起ころうとは誰もが知るよしも無かった。

「う、何だ!! お前は、どうして俺の同じ顔している……まさか例のドッペルゲンガー」

「ま、そうゆう見たいなもんだそして見られたからには生かしておけない、お前を殺す……」

今、発表会の楽屋の中で事件が起きた、この発表会の関係者のモデルがたまたま、楽屋に入ってきて底で

顔を合せてしまった、モデルに擬態してた奴が怪人……ワームに変化した、その姿は昆虫の（シデムシ）のモチーフした姿、セパルチュラワームになった、そしてモデルを殺害腹部に突き刺し底から大量の血が

出てきた更にもうひとつ手で心臓を貫いた底からも血が飛び出したそしてモデルは当然の用に死んだ。

セパルチュラワームはなんとその死体を食い始めたのだ、始めは頭部次に両腕、胴体、最後に両足を食らいついた、とその時楽屋から男性スタッフが入ってきたもちろんさっきの場面も目撃した。

「うう……そんな」

「みくたゝな、じゃお前も生かして生かしておかない」
「うわー」

慌ててその場から逃げる、スタッフすぐさま放送室に入った底でルネサンスホールに居る人たちに緊急事態を知らせれるのだったそれも自分の命を優先して

「ルネサンスホールの皆様にお伝えします緊急事態発生しました、この建物内に怪人が現れました。大至急スタッフはお客様を非難を………うわぁー!!!」

構内放送中していた、スタッフ声が途切れたと同時にルネサンスホールの客は一声に奇声を出してそのまま出入り口に走っていったものはや落ち着いてられる状態ではないその中にはうさぎ、なるの姿があった

なるはうさぎと一緒に出ようしたがうさぎは立ち止まった、なるは後ろのうさぎを向いたするとうさぎは

さっきまで明るい笑顔の顔してた彼女が険しい表情で何か決意したかの様な顔したそして口を開いたしかしうさぎから出た言葉はなるには想像すら出来なかった。

「なるちゃん、先に逃げて」

「何言ってるのうさぎ!!!早く逃げようよ」

「あたしは大丈夫だから……ねえ」

「うさぎ……」

うさぎはなるの手を放しなるを突き飛ばしたそしてなるは出入り口に逃げる人ごみの中に消えてった。

うさぎは逃げる人達の逆方向の走っていった、その頃士はとゆうとこの建物の中にワームを探していた

少し警戒しながら歩いている。

「何所だ、何所に居る、出て来い」

士の声に反応したのか、ワームのサナギ体の群れが現れたそして士の周りを囲んだしかし当の本人は逃げる訳も無く立ち向かう顔をしてた、そして左手からディケイドライバー取り出し腹部に装着使用としたが

思わぬ事態が発生した。

「あれ？あれれ？どうした、おいどうしたんだよ！！何故変身出来ない」

何時もなら直ぐに腹部に装着しベルトが巻かれるはずなのがディケイドライバーが作動しない、こんな時の間にサナギ体は士を襲い掛かった一体のサナギ体が士を手で殴り飛ばし倒れた次の瞬間サナギ体の群は

一斉に集団暴行加えた、5、6体で士の腹部を足を蹴りつけたり、中には士を無理やり立ち上がらせてまた腹部に殴るもちろん顔にも殴られているそれも何回繰り返しをした。

「このまま、俺は死ぬのか」

もはや、これまでなのかと思ったその時士の心からある人の声が聞こえた聞き覚えのある人物

（ディケイド……ディケイド……聞こえますか）

（誰だもしかしてその声はセレニティか）

（ディケイド諦めてはいけません、）

（何言ってるんだ……変身も出来ない上に奴ら（サナギ体）に体は

ボロボロで今にも死にそうなんだ)

(大丈夫です、助かる方法が一つだけあります)

(それは何だ)

(実は貴方の体に少し細工しまして、今までやり方では変身は出来ないようにしたのです)

(もしかしてあの時あの空間で浴びた変な光のせいかな)

(……はいそうです)

セレニティの今言った言葉に士は顔に青筋をピキッと浮かんだ

(ふざけるな!! お前のせいかな!! お前のおかげで……)

(ごめんなさいでもそれは貴方の為だからです)

(俺のためだと)

(はい、少しでもライダーの力に頼らず、少しでも貴方自身の力で敵を倒せる為です)

(俺の力だけで何か策があるのか?)

(ええ、まず自分のを引っ張って下さい)

(自分の服だと)

(はいでも、ただ引っ張ってもだめです、心の底から戦う意思を持たないと)

(わかった)

セレニティの言った通りに士は立ち上がり心の底から戦う意思を持って自分の服を引っ張ったするとセレニティの言われた通りにやると何とさっきまで着ていたコートにセーター、ジーンズの私服姿でなく

ディケイドカラーのマゼンダ色のライダージャケット中に緑色のTシャツに紺色のジーパンさらにジーパンの左側にアクセサリのチェーンが2つ靴は黄色のメンズブーツの姿になった

「何だこれは、何でこの格好は」

士が驚いている間にもサナギ体は再び襲い掛かった、だが士はそれをいち早く気づき攻撃をかわしたすると士は初めて自分から攻撃始めた、左からストレートパンチでサナギ体を命中した、サナギ体は遠くに吹っ飛んだ。

「どうしたんだ、変身してねえのに何で俺にこんなパワーがもしかして」

次に士は今度は右をストレートパンチでサナギ体を顔、腹当てていったこれ等も全てサナギ体を全て吹っ飛んでいったさらに士は柔道技の背負い投げ、一本背負い使いまた足で大外刈り、内股を使った他にも

空手の中段突き、手刀受け、廻し蹴りなどこれ等全ても通用した

「俺にこんな力がもしかしてこれ（ジャケット）を着てるからかひよとしたらあれも」

（セレニティ、この格好なら）

（はい、変身は可能です）

（よし、わかった）

士は再びディケイドライバー手にし腹部に装着したすると、今度は本心証明のベルトが巻かれた装着された士はガッツポーズした、左に付いてるライドブッカーからディケイドのカード、ライダーカードを取り出したそして士は変身ポーズ取り遂に……

「変身！」

『KAMEN RIDER……DECADE』

ディケイドライバーの音声と共に士の体は姿を変え、仮面ライダーディケイドとなったそしてサナギ体になった勝っていった

その頃うさぎはセパルチュワーム探していた、歩いても、歩いても見つからない諦めかけていたその時遠くからセパルチュワームを見つけたうさぎは直様隠れ底からこっそり見た、

（あれはまさか、ギャラクティカに生き残りが……いやそんなはずは無いあたし達が倒したはず）

とにかく、今は奴を倒さないといけないうさぎは自分の胸に着けている変身コンパクトエタールムーンアーティクル（以後エターナルアーティクル）を使って変身し始めたそして彼女は呪文唱えた

「ムーン・エターナル・メイクアップ！」

変身呪文を言った途端、うさぎの体は輝き糸纏わぬの姿になって、底から背中に4つの羽と同時にセーラー服のレオタードが体に装着し次に左手に長い手袋を装着し右手も同じ用に装着し次に両足にブーツを

装着しミニスカート最後におでこに三日月マークつけて変身完了、うさぎはこの世界で戦っている一人

エターナル・セーラームーン（以後エターナルムーン）だったのだ。セパルチュワームは歩いているその時

「待ちなさい！！」

「誰だ何所に居る出て来い」

「貴方の上に居るわ」

セパルチュワワームは上を見た底にはエターナルムーンがたっていた彼女は飛び降り着地した、セパルチュワは彼女に質問をし始めた

「お前、何者だ」

「あたしはこの星を守るセーラー戦士、セーラームーン」

「セーラームーンだと、聞いたこともねえな、まとにかくお前も殺す」

そう言った瞬間セパルチュワワームは超高速移動クロックアップを使ってエターナルムーンを襲い掛かった、彼女の腹殴る蹴るを前後ろ攻撃し彼女は吹き飛ばされた壁に激突した倒れたそれでもセパルチュワワームは彼女を無理やりに起き上がらせ腹を蹴る殴るをまた繰り返していた、顔にはアザや口元には血が出ていた

（あたしこのまま、死ぬのかな……）

彼女が諦めかけたその時、

「ATTACK RIDE: BLAST」

突如の場所から謎の音声 flowed、セパルチュワワームはエターナルムーンをとどめを刺そうとしたその時

だった弾丸の聞こえその弾が体に命中したそのショックでセパルチュワワームは吹っ飛んだ一体何が起きたのかがわからないエターナルムーンは後ろを向いた底には何と左手でライドブッカー構えたデイクイード

の姿だった、ディケイドは彼女に近づいてしゃがみ込んで口を開いた

「大丈夫かセレニティ」

「どうして？？あたしの名前を」

「今、説明している暇は無い、」

ディケイドは彼女から少し離れ、セパルチュワームの方を向いた
そしてディケイドは走り出し、いきなり右ストレートパンチ、次に
廻し蹴り、などでダメージ食らったさらにライドブッカーソードモ
ード

（以後ライドソード）で相手を切裂きダメージを与えた。

「さて止めと行くか」

ディケイドは右手に持っていたライドソードをブッカーに戻し左腰
にもどし中から黄色いディケイドマーク貼られてるカード、そう来
れこそがディケイドが必殺技出すものそれをディケイドライバーに
差込んだ
すると、

「FINAL ATTACK RISE：D，D，D，DECADE」

音声と同時に自分の前にカード型のホログラムが現れそしてジャン
プしそのホログラムを通過し飛び蹴り
をするディケイドの必殺技ディメンションキックを放った

「ハ………ハ……」

「うわ……」

ディケイドは見事セパルチュワーム倒し爆破した、この戦いを最

初から最後まで見たエターナルムーンは
驚きを隠せなかった、そしてディケイドは彼女の元へ駆寄った

「大丈夫かセレニティ立てるか」

「あ、うん大丈夫、ありがとう」

「そうか……無事で何よりだ」

そう言うときディケイドは手を出し彼女の手を掴み立ち上がらせた、
すると彼女から質問をした

「所で貴方は何故の名前を知っているの」

「それは……」

「答えて！ 答えなければ助けて貰ったけど、次は貴方を攻撃する」

「分かった、分かったよ言うから」

ディケイドはため息を付くと自分の事と今までのことを話すのだった

「実は俺は30世紀のお前にこの世界を救ってくれと依頼してきた
俺はそれを引き受けたそして此処20世紀にやって来た、そのつま
り俺は別世界から来た」

「嘘、それホント」

「ああ本当だ俺は嘘をついていない」

「じゃあさつき貴方が倒した怪人、あたしテレビとかで見たんだけ
ど何？」

「あれはワームだ」

「ワーム??」

「ああそうだ奴等は人間に擬態したりさらに成虫体にはクロックア
ップ能力がある上、サナギ体も居て奴等も脱皮して成虫になる、ま
た逃げて直に追いついてしまうんだ」

「そうなんだ、」

「じゃ俺はこれで……」

「待ってまだ自己紹介してなかったね、あたしは貴方も知ってもとうりセレニティとゆう名前だけどこの時代ではセーラームーンて言うの次からはそう呼んでね、貴方の名前は」

「俺は通りすがりの仮面ライダー、仮面ライダーディケイドだ覚えておけ」

そう言うときディケイドは去っていったこうして物語は初じまった。

— to be continued —

A c t, 1 破壊者と美少女戦士の出会い（後書き）

最初うまく順調だったのですが、後半は少し、急いでたのすみません
では次回にお会いしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7070x/>

仮面ライダーディケイドSTARS

2011年11月12日05時19分発行